




糸あそび

消臭糸でボンボン玉作り

〈サロン・あべの〉5月の出会い

気がかりな雨がお昼前から薄

日に変わった平成18年5月20日

(土)午後1時~4時、育徳コミ

ュニティーセンター2階研修室

で、5月の出会い「糸あそび」消

臭糸でボンボン玉作り」

と題して池内沙織さん

(手沙織工房・主宰)写真

下)に、消臭糸で作る手芸

を指導していただきました

た。池内さんには昨年春

から「サロン・あべの」紙

に「ひとつずつ、ひとつだけの

世界」を連載していただいでい

ます。今日の「ボンボン玉作り」

の話も、前もつてそのコーナー

に書いていただいでいました。

この日は、赤・青・黄・緑・白・

黒・紫・ピンク・オレンジ・そ

れの濃淡の色など、目にも鮮や

かな色とりどりの毛糸が机に広

げられました。この毛糸はアク

リルで「アンモニア消臭繊維」

と言われるもの。

この糸でトイレ内に飾れる小

物を作って置いておくと、その

トイレ内の臭いを吸収するし、

見た目でも楽しめる。また、室



内に置いておくとタバコなどの

臭いも吸収してくれる。かぎ針

や棒針などが使えれば、小物と

言わず、トイレの便座カバーや

ティッシュカバーなど、大きな

ものも編みこんでいろいろな形

を作って楽しめる。また、静電

気でほこりを取る事が出来る

ので、この毛糸で作った小物でパソコンやテレビのほりりも拭える。汚れば洗えばよい。洗っても効能は消えない。各部屋に可愛い小物を飾っておけば、心も和んでくる。作ることを楽しんで、出来上がりを飾って喜んだ優れたものであることをお話いただいた後、私たちに出来る作品、2種類を教えていただきました。

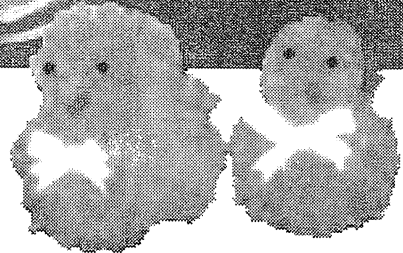
一つは、パソコンなどのほりりを取る「卓上ほうき」。これは道具要らずで、誰にでも出来る小品。好きな色を3色選んで、三つ編みをするだけ（次頁に詳しい作り方）。

もう一つは「ボンボン玉作り」。ジャンボ・大・中・小のボンボン玉作り器に毛糸を巻いて、輪の山をはさみで切つて糸でくくるとまん丸のボンボン玉

が出来上がる。簡単にフワフワの毛糸玉が出来上がる。見本はこの大小のボンボン玉を組み合わせた「ひよこ」（写真下）。

みなさんそれぞれの好みで色を選んで「卓上ほうき」作りをしました。三色編み、色の濃淡編み、反対色や同色系編み、一色編みなど各自の個性が表現された作品が出来上がりました。

「ひよこ」は、黄色の毛糸で大・小のボンボン玉を作り、組み合わせて、目とくちばしを付けると、可愛いひよこが出来上がります。その他にボンボン玉を花に見立てて針金を軸に葉っぱを付けると1輪の花に仕上がります。ボンボン玉の色を変えて幾本か作り、まとめてレースで飾ると可愛いブーケになりました。紫で作ると季節の紫陽花になっていました。また、黄色のボンボン玉をたくさん作り、



ひまわりの花にレイアウトした人もいました。

参加者一人ひとりのペースに合わせて指導していただき、出来る上がる作品はどれも可愛く個性が光っていました。

「不器用なんです、出来ませんでした」

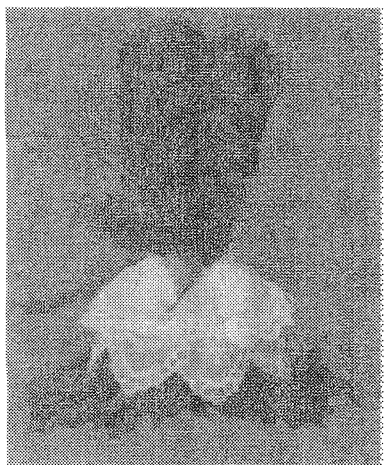
「初めて作って、楽しかった」「自分が作ったこのひよこを持って入院します。元気になってまた参加します」

「ひよこでトイレは臭わないし、ほうきでパソコンのキーボードはきれいに・・・」

「ボンボン玉作りは難しいと思っていました、作る器具があることを初めて知りました。その器具の名前は？」（そのまま、「ボンボン玉作り」器だそうです）

「わいわい賑やかにおしゃべりも弾んだ（サロン・あべの）5月の会合でした。」

（参加者10名 富田慶子）

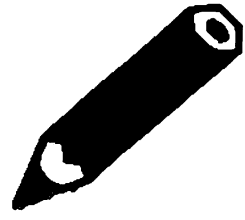


卓上ほうきの作り方

消臭糸45cm×24本を2セット用意する。1セットの毛糸を房分7cm下がったところをしっかりとくり、そこから三つ編みを固く編んでいく。残り7cmになったらまたしっかりとくる。二つに折って7cmのところを一つにくる。この出来上がった2本を横に並べて房のあたりをくる。仕上げにレースとリボンを飾って「卓上ほうき」の出来上がり。



28



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者の自立

最近、障害者の自立生活センターが全国にできて、介護の必要な重度障害者の自立において重要な役割を果たしています。今では障害者の間でごく普通につかわれている「自立」という言葉について、立岩真也「自己決定する自立」(石川准・長瀬修編『障害学への招待』明石書店、1999)の内容を紹介しながら、考えてみたいと思います。

1960年代に米国で障害者自立生活運動が始まり、1972年にバークレーに最初の

自立生活センターが設立され、アメリカで自立に関する論文が発表され始めるのは1970年代後半です。三ツ木任一は、『自立生活』は元来、1970年代のアメリカのめざましい進展をとげた、障害者自身の主体的な運動(Independent Living Movement)に端を発した用語で、その基本的理念である(Independent Living)の日本語訳である」と説明しています。また、小島蓉子は、「1970年代半ばまでに、自己意識に目覚めたアメリカやスウェーデンの障害者リーダーたちを先頭に運動はおこり」、世界各地に波及していったと説明しています。

しかし、立岩は日本でも「自立」「自立生活」に向かう運動は、1970年代から存在していたと次のように説明しています。例えば、1972年9月の『府中療育センター闘争』の機関誌には、「現在の状態で、障害者用の住宅と介護料の要求が満たされたとしても、それは語の真の意味で自立した生活ができることを意味しない。……自由に行きたいところに行き、やりたいことをするために、あまりに多くの壁がある」と、自立という言葉

葉の記述がありました。また、関西では1972年に「自立障害者集団姫路グループ・リボン」が、続いて「自立障害者集団友人組織グループ・ゴリラ」が結成され、自立という言葉が使われています。

このように70年代初頭から既に「自立」「自立生活」という言葉は現れており、このような運動は世界同時多発的に起こりました。しかし、文献には日本の動きについての言及はなく、「自立生活運動」は米国他の運動として紹介されるようになり、80年代以降の日本の自立生活運動の動向は、アメリカから移入された運動として語られ、日本独自の70年代からの運動が変化して引き継がれていったという動きはほぼ除外され、記述されることもありませんでした。日本では自立ははつきり定義されることはありませんでしたが、具体的には、「親元を離れ、施設でない場所で、自分が生きたいように、介助が必要ならそれを得て、施設ではなく地域で暮らす」という主張は、米国の運動の主張と共通のもので、「職業的自立」「身辺自立」を至上の価値とすることを批判し、自ら保護される立場から離れ、

主体性を主張し、自己決定していく点においても米国と共通の自立観をもっていました。

日本に「自立生活センター」という組織が現れるのは1980年代後半以降で、この時に日本の障害者達は米国の障害者達の方法論、組織論を取り入れました。しかし、立岩はその時点でも、それ以前の日本に存在した障害者の自立観が不在にされてしまったと問題提起しています。そして、日本で、社会の必然により障害者の自立生活運動が起こり、それを進めた具体的な力があり、苦闘があり、試行錯誤があったことを障害者福祉を学ぶ人達や運動を引き継いでいく人達に伝えていく必要性について語っています。(定藤邦子)

ありがとうございます。

カンパ、お菓子・ペットボトル茶・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

サロンひだまり、今西美奈子、井上礼子、植松菊雄、大西平三、小西京子、藤井さゆり、藤田春、松森、宮本志津代、

その他の方々。(敬称略)

雨がふります

水たまりを
ひらり跳びこえ
いっしょに
いろんな話しよう
晴れたらいいね
晴れたらいいね
晴れたらいいね

.....

童謡♪絵はがき・雨

- ・あまがさからかさ
- ・てるてる坊主
- ・雨降りお月さん
- ・雨
- ・あめふり



え：石田美禰子

童謡♪絵はがき・雨

■ 5枚1組 ¥180

悲しみに微笑むこと

認知症の研究でたいへん有名な先生の講演を聴く機会があった。なにしろ先生は三十年以上も前に自ら発案した認知症診断のためのテストで、全国的に広く知られていた人だったので、失礼ながら、きつと気難しくて何を言っているのかわからないような高齢の方だ



ろうと思っていた。

ところが、先生は矍鑠（かくしゃく）ときられていて、司会の紹介が終わるやいなや、ひよいひよいと早足で壇上上がったいく。「いったい、おいくつなんでしようねえ」と、驚いたようにささやく声が私の後ろの方から聞こえてきた。聴衆の大部分は高齢者介護にかかわる人たちだったから、先生の年齢が気になったのだろう。

医学的な話のあと、認知症のかたが描いたという一枚の絵がスクリーンに映し出された。闇に囲まれ、独り、頼りなさげに歩いている顔のない人物が描かれていた。「どんな気持ちでこれを描かれたのでしょうかねえ。きつと、とつても不安だったのでしょうかねえ」と先生は静かに語る、それも温かな笑顔を浮かべながら。

私は、そのときの様子を思い出すだけで目が熱くなる。認知症患者の痛ましい姿に思いを寄せたからだろうか。たしかに、それもあ

る。しかし、私の胸に響いたのは先生の優しい口調であった。

不思議なことに、語られる内容は本当に悲惨なことばかりだったのに、それは先生の笑顔と矛盾することなく、逆にその笑顔によって落ち着いた波長を与えられて、一人ひとりの聴衆に届いているようだった。

それはそれほど優しい微笑みだった。三十年、四十年と認知症の患者と家族に寄り添ってきた医師だからこそ、作ることができた表情だったのかもしれない。「それでも、私はあなたのそばにいますよ。ご安心なさい」と語りかけてくれるようだったのだ。

振り返れば、私も社会福祉にかかわる教員として、すでに二十年以上、多くの人の前で病をもつ人の生活の辛さや痛みを語ってきた。私は、いつたいどんな顔とどんな声で、こういうことを話してきたのだろう。

よくは思い出せないのだが、一つ言えることは、私は、この先生のように微笑みを浮かべながら、人々の悲しい体験を語ることはなかったということだ。微笑みは不謹慎であるように思えたし、それは苦しみの中にある人

には失礼であるように考えていた。

しかし、果たしてそうだったのだろうか。本当のところ、私は一步、引いていたのだと思う。過酷な現実と向き合う人を前にして、私は畏(かしこ)まりつつも距離をとっていた。礼儀正しく振舞おうとしながらも、私は立ち止まることなく、いつも行きずりの人として先を急いでいたのである。

私は、きつと何もわかっていなかったのだ。私の無神経な発言や表情は、多くの苦しむ人の気持ちを傷つけてきたに違いないと思う。

いや、想像ではなく、実際にそうだったことを、先生の講演が終わるころには気づきはじめていた。祖父の死が社会福祉学科に進学する動機となったと、入学試験の面接で答えられた高校生に、試験官の私が何を言ったか。きつと、それはもう十年以上も前のことに違いないのに、不意にそのことを思い出したりしていた。

父の病を通し、私はこれからも多くのことを学ぶような気がする。いや、「これからも」ではなく、まだ始まったばかりなのかもしれないが……。

(知)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第239号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第239号までそろっています。
- (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠 1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳DJ)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

6月といえば野山はすっかり深緑に包まれ、人も風物も夏の装いとなる。こうしたイメージから6月は他の月と比較すると、非常に明るい月のように思われる。

しかし6月11日は暦の上では「入梅」であり、この前後からおよそ1カ月間にわたってしとしとと雨が降り、思っただけでもうとうとうしくて嫌な気分させられる。だからと言って雨が降って貰わないとたちまち水不足となり、私たちの生活に影響を及ぼし困ってしまうのである。

梅雨期は何も雨ばかりではない。この時期には杜若、花菖蒲、紫陽花などの花が咲き、私たちの心をいやしてくれる。中でも特に紫陽花は雨によく似合い、しっとり雨に濡れた紫陽花を眺めていると、何

とも言えない風情があって良いものだ。

6月22日は「夏至」である。言うまでもなくこの日は昼がいちばん長くて夜がいちばん短い。俳句の季語に「短夜(みじかよ)」ということばがあるが、「明易し(あけやすし)」「夏の朝」と同じ意味である。夏至の前後には午前4時半頃にはすでに薄明るく、朝寝坊のわたしには「早く起きなさいよ」とせきたてられているような気がするのである。

この「短夜(春)」のように俳句の世界ではそれぞれの季節をよく

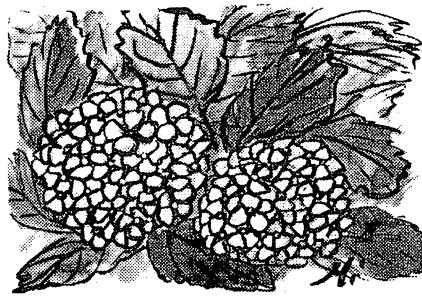
表した季語がある。ちなみに日永(ひなが・夏)、夜長(秋)、短日(みじかび・冬)である。

このように6月にもいろんなことがあるが、私は6月が大好きである。

晴れのち晴れ 93

6月に思う

稲垣恵雄



お知らせ

〈サロン・あべの〉7月の出会い

内容：はあとびあ

― 王子書店の心をのせて ―

お客さま…上田宏子さん(王子書店・店長)

日時…7月15日(土) 午後1時〜4時

場所…育徳コミュニティセンター2階

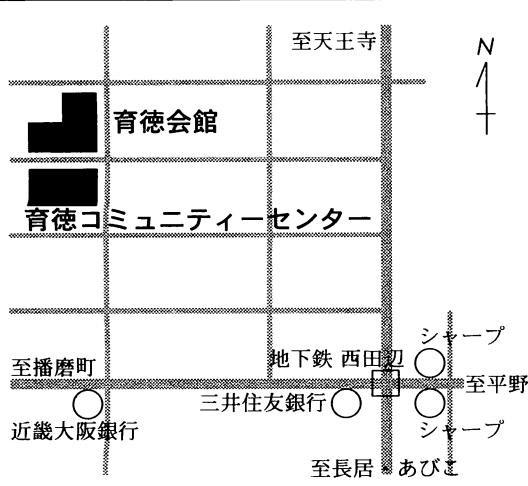
TEL 06-6621-1901

最寄り駅…地下鉄御堂筋線「西田辺」

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



赤松 昭

「谷間」に

「くだわり」続けて

25

「若者と家族の会の歩み(その6)」

会の活動は次第に外へと向かって広がっていききました。それまで親睦団体に過ぎなかった私たちの会の姿は、徐々に活動団体へと脱皮を始めていったのです。その活動ぶりは、他の脳損傷関係団体からも一目置かれるものでした。しかし、こうした対外的活動の発展と引き換えにその弊害も目につくようになりました。それは、例会の「事務会議化」です。対外的な働きかけを行うためには、そのための事前準備、行動内容を検討する話し合いが必要ですが、私たちはそれをずっと毎月の例会でやっていました。結成間もない頃はそ

れでも良かったのですが、対外的な活動が多くなってからは、例会での話し合いの大半をこうした活動の準備のために費やすようになったのです。ただ、例会には会員ばかりでなく、私たちの会のことを知りたい、できれば会員になりたい、という動機で見学に訪れる人も参加します。しかし、目の前で繰り広げられるのは、「今度府庁に行つて誰に会いどんなことを要求するのか」「今度の講演会の会場はどこにしたらいいのか」、といった議論なのです。「藁にもすがりたい」、「この気持ちを誰かに聞いて欲しい」、という

う想いでやつと私たちの会にたどり着いた人たちが、こうした「事務会議」に2時間も3時間も付き合わされてどう思うでしょうか？ 実際、希望して例会の見学に来ながら、それつきり来なくなってしまう人もいました。見学者のみに止まりません。会発足当初から活動していた会員の中からも、こうした活動のあり方への不満が聞かれるようになり、会の活動に距離を置くようになった人たちが出始めたのも事実です。

を行うことにしました。例会を行うのは奈良ですが、大阪、兵庫、京都にそれぞれに支部を置き、そこでごく少人数のミーティングやレクリエーションなどを行い、会員間の親睦を高めるようにしたのです。さらにこれに加えて、高次脳機能障害部会、遷延性意識障害部会を作り、それぞれのニーズに応じた部会活動も新たに始めました。地域別を縦糸に、二ード別を横糸にして私たちの会の活動はその幅をまた広げていったのでした。

(会の歩みまだ続く)

□お願い□

「サロン・あべの」紙が、ホームページ(<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>)「サロン あべの」でも検索)で、いつでも好きなときに、読みたいところを、読めるようになったので「サロン・あべの」紙はもう、送らなくてよいとおっしゃる方、そしてまた、「サロン・あべの」紙を読むのをしばらくお休みしたいとお思ひの方、ご連絡ください。

連絡先：
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町 6-3-26 <サロン・あべの> (富田慶子方)
TEL・FAX 06-6691-1028

美智子のこんな話

岸田美智子

福祉エキスポ2006大阪大会に参加して

5月28日、中之島中央公会堂にて、NPO日本アビリティーズ協会主催「福祉エキスポ2006大阪大会」が開催され、私も参加してきました。プログラム内容は、厚生労働省障害福祉課長が自立支援法の内容について詳しく講演し、その後当事者から現状報告がありました。その中で障害者差別禁止法の現状報告もありました。

午後からは、障害者自立支援法を当事者から見たときの問題点などのシンポジウムがありました。兵庫県のメインストリートの玉木さんなどのパネラーが発言され、いかに今度の障害者自立支援法が障害者の人権や生活を無視したものか、ということが明らかにされました。私はこの集會に参加して、この障

「障害者差別禁止法（JDA）を実現する全国ネットワーク」の概要

「障害者差別禁止法を実現する全国ネットワーク」に、さまざまな障害をもつ障害当事者団体が手を携えて、組織名に明示した目的のために、2001年12月9日（障害者の日）に設立した組織です。前身は、同年4月に設立された「障害者福祉と介護保険制度・研究会」です。

母体となった「研究会」は、2000年4月より施行された介護保険制度が、虚弱高齢者の介護に偏ったもので、障害者の生活支援と自立に対してはなほ配慮に欠け、むしろ自立を阻害するもので、障害者福祉が後退している現実を打開するために設立されたものです。そして、この研究過程で、この問題解決のためには、どうしてもわが国の福祉政策全般を見直す必要があること、また障害者福祉施策の中に大きな欠落部分があることなどを痛感しました。また、この現状を変革していくためには、障害者の全生活を支援する、アメリカのADAに準じた法律の制定、すなわち「日本版ADA（JDA）の制定」こそが緊急の課題である、ということから、当ネットワークをスタートさせたのです。

日本には、現在約700万人の障害のある人たちがおります。日本国憲法では、「個人の尊厳と法の下での平等」を保障しております。にもかかわらず、この多くの障害のある人たちは、日々いわれなき「差別と権利侵害」に苦しみながら生きております。

理念法に過ぎない現行の「障害者基本法」では、この諸課題の解決が不可能です。すでに、世界の40カ国を上回る国々が制定している「障害者差別禁止法」を、この日本で、数年以内にぜひ実現したい、というのが私たちの願いです。

る基盤がないのだということが実感できませんでした。その基盤となるものが、障害者差別禁止法なのだと思いました。

ここに「障害者差別禁止法（JDA）」を実現する全国ネットワークの概要を掲載しておきます。

○連絡先
社会福祉法人あいえる協会
自立生活センター・MYD
担当 岸田
〒558-0002
大阪市住吉区长居西1-9-1 キミハウス1階

メール cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

TEL 06-66609-3133

FAX 06-66609-3210



こんにちは

梅雨空の下、アジサイが雨の中であざやかさを増しています。じめじめ、うっとうしいなどとマイナスのイメージの言われ方もありますが、この季節故に藍色、ブルーは私たちにその色のすばらしさと共に、癒しまで与えてくれています。藍色のれん、ゆかたのブルー、作務衣など、ブルーは時間の長さを感じさせない、精神を落ち着かせる色です。自然の力、日本の四季に触れられる私たちは幸せです。そのような角度で色を感

じるのも楽しいものです。そしてまたおしゃれですね。

今日は色と性格のお話です。

誰もが好きな色、嫌いな色があります。どうしてあるのでしょうか？ 私たちは色に対して、個々何かしら違った感情を持って接しています。派手すぎるとか、高貴な感じがする、上品である、そうでない、自分に合う、合わない、このような感情は今までの生活の中での経験や生活習慣が支配しています。性格が感情を決めるともいえます。性格は変わらないといわれますが、後から作られることもあります。自分の性格が変わったのでは、と気づいたとき、色の好みも変わっていることに気づきます。逆に性格を変えたいと思ったら、その色を好きになる努力をすれば、変わることも可能ということです。

人は色に対して様々な感情を持っているので、色の好みからその人のだいたいの性格を知ることができます。また、着るものの色によって体調や感情をある程度コントロールすることもできます。たとえば、気持ちが

落ち込んでいる時ほど赤系を身につけるとよいようです。

□赤・・・

外向的な人の好む色。何事にも厳然と立ち向かいます。衝動的で運動家タイプです。生命力の象徴である赤を嫌うのは、心身が疲労し力を失っている状態ともいえるので、大好きにならずとも、時には赤にも目を向けて元気をもらってください。

□ピンク・・・

愛情が細やかで気配りができる。柔和で上品。優しい心で受け止められる。傷つきやすい。

青春の色でもあるので、年配の人の若返りにイメージできます。

□黄・・・

目新しいことが好きで、冒険好き。太陽のように明るく、表情に富む。社交的で、話好き。キラキラした表情の人は多くの人に温かさを与えることとなります。古代エジプト人やマヤ人は黄色に正に生きていく力を持つ太陽をイメージしました。

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



—問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織—
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上↑101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp

イギリスのマーガレットさんから

親愛なる慶子様

お久しぶりです。長い間、手紙が書けなくてほんとにごめんなさい。

カードの写真(セントポール教会・カールトン ウイロー=略)は、私がこれまで40年にわたってガールスカウトのお世話をしてきた教会のものです。この教会には、今でも別の形でかかわっています。

97年11月のあなたの手紙を何度も読み返しました。お嬢さん・ミユキさんの息子さんは大きくなりましたでしょうね。

筋ジストロフィーを抱える私の一番下の息子ピーターは、アパートで生活しています。週に1度は、自分で部屋の掃除をします。バスで作業所に行き、ネジを取り付けたり、書類をシュレッダーにかけたり、コンピューターの解体をしたりと忙しく働いています。

ユウトはどうしていますか？ 学校は気に入っていますか？ 学校では英語を習っていますか？

ガールスカウトのリーダーをしている私の友人が日本で英語を教えているんですよ。

英国では、なかなかすっきり晴れるということはありません。今日も雨でした。春はいつもこんなで、6月になってやっと夏がきます。

私は、庭いじりが好きなんです。今はタンポポがきれいに咲いています。1月には庭が雪化粧してとてもきれいでした。

私には孫が6人おります。娘のジルには12歳のジョシュア、10歳のジョージ、6歳のアイザックと男の子が3人です。

学校ではみんなよくやっています。20マイルほど離れたリチェスターのメルトン・マルプレーに住んでいます。

長男のイアンには、男の子2人と女の子が1人います。クリストファー10歳、ニコラス8歳、アレクサンドラ6歳です。この家族はウエールズに住んでいます。

ステイブンと奥さんは北イングランドのダーハムに住んでいます。

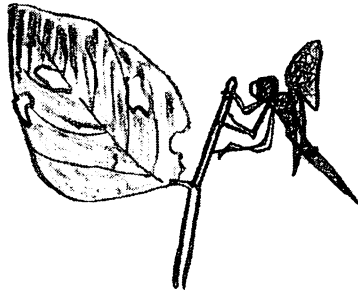
私は慈善活動で毎日を忙しくしています。4月には大きな集まりがあり、参加者は190人、医者は何人も来て話をしてくれました。昨年10月、カナダでの会議で、筋ジストロフィーの研究をしている日本の教授にお会いしました。日本に奥さんと娘さんがいらっしゃるとのことでした。国際会議で彼に会うのは3回目です。

サッカーは見ますか？ もうすぐワールドカップが始まりますね。楽しみです。

あなたの幸せをお祈りしています。お元気で。

マーガレット
(訳=林 正弘)

メールもいいけど、
手紙もネ。



サロンの
一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-



SALOON

隣組ニュース

7月はどこのサロンの、どのテーマが
気に入りますか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」7月の出会い

日 時：7月16日(日) 午語1時30分～4時
内 容：靴と健康のお話-靴を科学的に考える-
ゲ ス ト：大木金次氏
シ ュ ー フィ ッ タ ー (靴と健康協議会)
(株)大丸心齋橋店紳士靴担当者
会 費：なし
場 所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」
[大阪市淀川区三国本町2-14-3]
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
ロー) ☎ 06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」8月の出会い

日 時：8月13日(日) 午後2時～4時
内 容：暑中見舞いの絵はがきを作ろう！
☆用具はこちらで用意します。
会 費：なし
場 所：西区在宅サービスセンター第一会議室
大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)
地下鉄＝西長堀駅 4-A号 出口からすぐ
市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ
☎ 06-6539-8075
☆「サロン・にし」7月の出会いはお休みです
問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン・にしよど」7月の出会い

日 時：7月22日(土) 午後1時30分～3時30分
内 容：たこ焼きパーティー
場 所：トモノス西淀川
参 加 費：50円
☆今年もやります。たこ焼きパーティー！
子どもさん多数参加しますが、大人の方もお手伝い
に来てください！
問い合わせ先：中本勝也

☎ 090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」7月の出会い

日 時：7月9日(日) 午後1時30分～4時
内 容：映画鑑賞(内容未定)
ゲ ス ト：未定
会 費：なし
場 所：未定
問い合わせ先：鈴木昭二
☎・FAX 06-6340-3082

■「サロン北」7月の出会い

日 時：7月15日(土) 午後1時30分(開場)～
内 容：「サロン北」発足1周年記念
《第1部》ワークショップ「音楽と福祉-
障がいを持った演奏家たち-
講師：仲川一昭さん(各オーケストラ団
長・指揮者＝そうるミュージックオーケス
トラ、福祉の管弦楽団『まごころ』、オー
ケストラ『響』)
《第2部》手づくりのコンサート
ヘルマンハーブ、オカリナ、キーボード
など癒しのサウンド?でおもてなしでき
るといいな! 障害者福祉作業センター
『たけのこ』のみなさん
場 所：障害者福祉作業所センター「たけのこ」
[大阪市北区本庄東2-6-11 宝来堂
ビル1階、本庄川崎公園北側、緑色のテ
ントのあるビル]
定 員：20名程度、お早めにお越しください。
会 費：なし(お茶付き)
問い合わせ先：サロン北・事務局、担当＝仲川
☎ 06-6372-8074
FAX 06-6372-8867

■「サロンいたみ」7月の出会い

日 時：7月23日(日) 午後2時～
内 容：サマーコンサート
演 奏：西宮ジュニアオーケストラ
会 費：なし
場 所：伸幸苑[伊丹市寺本6-150]
問い合わせ先：安藤黎子
☎ 072-784-1718

品物の提供を
お願いします

さろん亭

「さろん亭」開店の日が近づいてきました。石鹼1個、
タオル1本でもかまいません。品物の提供をお願いします。



品物をご連絡くだされば取りにうかがいます。またこわれる
ものでなければ送料着払いでお送りくださっても結構です。

<サロン・あべの>

連絡先 富田慶子 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL/FAX 06-6691-1028

寄りみち



毎年この時期、この欄に同じことを書いて申し訳ありません。いい
ながら今年も書きます。「さろん亭」の開店が近づいてきました。品
物の提供をお願いします。＜サロン・あべの＞の台所は決して裕福
ではありません。その中であって、「さろん亭」の収益はサロン活動
の財源に大きなウエイトを占めています。重ねてお願いします、タ
オル1本、石鹼1個でもかまいません、ご協力ください。 (石)

<サロン・あべの>VOL.240 発行：平成18(2006)年6月17日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>